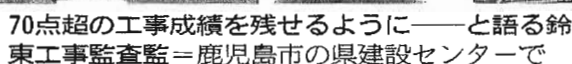


県土木部等

法律、制度の改正事項などを学んだ。



に係る様々な制度の変化、環境問題への関心が必要と述べた。また、工事成績は経審の主観点に反映されるし、65点が標準とせめて70点を超えるよう努力してほしいと付け加えた。

また、同日は入札契約適正化法、13年度土木部工事検査結果、共通仕様書、積算基準の改訂等の講義も行われた。

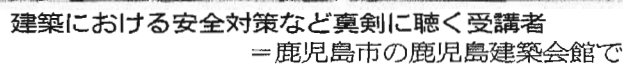
建設会社などから約150人が出席して、快適な職場づくり等について学んだ。

説明会ではまず、玉利表情で聴き入っていた。

快適な職場づくり学ぶ

ルス」と題して、心の病が身体に及ぼす影響などについて説明した。山中教員は「苦しみは一人で切さを訴えた。最後に鹿児島労働局雇用均等室の山下祥子指導員が育児・介護休業について講演を

墜落・転落災害の絶滅を



県建築協会（内村實會長）は13日、鹿児島市の鹿児島県建築会館で安全衛生講習会を開き、会員ら多数が出席、労働災害発生状況や建築工事業における安全衛生対策などを真剣に学んだ。

初めに、山下労務委員長が「今月、労務委員で3回の安全パトロールを実施しました。その中で踏板の適切な設置等がな

14年度全国労働衛生週間
実施要綱などについて説
明した。

全な作業に役立てるために真剣に聴いていただろう」と挨拶した後、鹿兒島労働基準監督署の水溜栄作安全衛生課長が、労働災害発生の現況、建築工事における安全衛生対策、水溜課長は「労働災害の中で、3大災害は依然として多い。建築においては、墜落転落災害が全体の40%を超えており、安全衛生管理活動の促進を重点事項に掲げており、

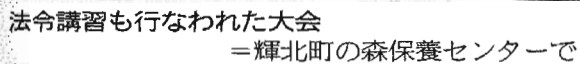
徹底をお願いしたい」と呼びかけた。また、昨年の労働災害の現況では建設業の約半数が墜落・転落災害で1層から4層で

森建設労働安全大会

安全意識の向上を

(株)森建設（森義久代表取締役、曾於郡輝北町）安全への取り組みを確認した。

は13日、曾於郡輝北町の森保養センターで14年度労働安全大会を開き、関係会社や協力会社から150人が参加し、労働災害防止、交通事故防止などの講話を通じて更なる大会では、物故者に黙とうを捧げた後、森社長が「苦しい中で頑張り続ける企業が生き残れると思います。そのなかでも安全に対する認識が一番大事です。更に安全の認



識、意識を高めるため、本日の大会で学んだことを今後の仕事等に役立てて下さい」と挨拶。続いて感謝状と安全功労賞の表彰式が行われた。

次に大澤隆志布志労働基準監督署長が、参加者一人ひとりに「安全に関するクエスション」と題したテキストを配り、それに基づいて労働災害防

止を訴えた。引き続き、法令講習、交通事故防止や健康等に関する講話があり、出席者は熱心に聴き入っていた。

このあと、落合兼信(株)

森建設土木部が「0 災唱和」を唱え閉会した。大会終了後は、献血も実施、大会参加者が愛の献血運動にも協力した。

表彰者は次の通り。

【感謝状】東丸工務店
【従業員安全功労】稲森実 松永浩平 宝田正弘

「燃える青年経営者——マに、中小企業家同
今こそ経営維新」をテ 友会全国協議会（赤石

青年経営者全国交流会

志高く、次なる目標へ



義博会長）主催の第30回青年経営者全国交流会は12日から鹿児島市で始まり、同日の分科会に続き、13日には同市の鹿児島サンロイヤルホテルで全体会議と記念講演が行われた。

会議では、開催地の山口悟県中小企業家同友会代表理事が「我々は、もっといい経営、企業づくりを目指してアクションを起こしており、志を高くして次の目標に挑戦したい」と開会の挨拶をした。

若さで経営改革に挑戦することを確認した交流会＝鹿児島市の鹿児島サンロイヤルホテルで

続いて、赤石会長が「地域活性化によってこそ、日本の再生がある。ホンモノを大切に、自然を守って頂きたい」と挨拶。来賓の須賀龍郎県知事も、約600人が参加しての本県での開催を歓迎、全国の若手経営者の活躍にエールを送った。

この後、濱田雄一郎氏（濱田酒造(株)社長）が「この時代に、どう変わるか」と題して講演。大学を中退、若さに任せて酒類業経営に突っ走った経験と失敗談などをユーモアを交えて話し、激動の時代には夢を戦略化、事業化して、それを実行に移さなければならない」と語った。

お手軽で便利な
購読料のお支払いは

自動振替で

鹿児島建設新聞
099-227-5100へ